

# 平成 25 年度事業報告

## ① 事業所別予算に対する実績（予算達成率）

特 養	100.6%（稼働率 96.90%）	ショート	83.4%（稼働率 92.50%）
デイサービス	125.0%（稼働率 82.60%）	居 宅	40.3%（前年度延べ人数 202 人）

## ② 運営

平成 25 年度は前年度と比較し、居宅を除いた各事業所で稼働率が向上、安定した経営となった。

特養では平成 24 年度に利用者の高齢化・重度化を主な原因として多くの入退所があったことにより、利用者の約 4 割が新規利用の方々となったことや、入所判定委員会を定期的  
に開催し、入所申込者の状況把握と空室発生時の迅速な入所対応ができたこと、口腔ケア等  
利用者へのケアの向上が、誤嚥性肺炎等による入院を減少させたこと等が、安定した稼働率  
につながり、利用者が施設内で安心した生活が送れたと考える。

ショートステイでは、空床利用を見込んだ高い稼働率を目指したが、特養の入退院が少  
なく、短期間での退院が多かったこと、空床利用が可能なケースが少なかったこともあり、予  
算達成には至らなかった。

デイサービスは、スタッフの増員とサービス力の向上により、稼働率が 24 年度 59.4%か  
ら 25 年度 82.6%に上昇、利用者の新規や増回の希望もあり、26 年度に定員を 20 名に増員  
するほど、規模拡大につながった。

居宅介護支援事業所は、ケースが 0 からのスタートということもあり、関係者との信頼関  
係を構築するところからという正にゼロからのスタートとなったが、現在（介護・予防含め）  
30 ケースまで増えてきた。今後はスタッフを増員し、きめ細かな支援を行うと共に、事業  
拡大を計画していきたい。

また松江市第 5 期介護保険事業計画による、既存特養の 5 床増床を公募により選定いた  
だいた。25 年度内の完了を目指し、短い工期の中、無事に無事故で改修を完了した。

## ③ ケア全般

特養は前年と比較して入退所が少なく、その面では落ち着いてご利用者へのケアに集中  
できた。また、利用者主体の統一したサービスの提供へ向け、各利用者の担当介護員が 24  
時間シートを作成、他職種でのカンファレンス等を定期的  
に開催し、職員間での情報共有や  
利用者の状態把握についてはできたが、施設サービス計画等を把握した上でのサービス提  
供には、未だ充分ではない状況がある。今後は施設サービス計画・24 時間シートの活用と  
職員全員が統一したケアを提供していくための“介護理念”を策定することが必要と考える。

ショートステイではスタッフが整い、利用者  
と職員間、利用者同士の顔なじみの関係が築  
けてきたことや、通所との併用の利用者が増える中で、事業所間での連携が的確に行えたこ  
ともあり、安定したサービスが提供できた。今後は入所系のサービスの競争が激化すること  
で、ショートステイの利用者が減少することも考えられることから、一層の体制強化を検討。

デイサービスでは利用者・家族に対して、きめの細かい対応を心がけ、“在宅生活を継続する上での安心を提供するに必要な対応を”と努めたことが、精神的な支えに繋がり、利用者と家族の満足と利用増の大きな要因であると考えている。今後も利用者の自立支援、家族支援等を丁寧に行っていく。

また、今年度は多くの研修会等へ積極的に参加したことにより、個々のスキルアップを図ることができた。25年度は施設外研修が多く、多くの職員が一同に揃い価値観を共有できる施設内研修の開催を増やし、更に学べる体制を整える。(別紙 研修参加者参照)

#### ●口腔ケア

H24年6月より松浦Drを招き基礎研修を開催し、同年7月から歯科衛生士の個別ケア指導を開始。現在、定期的な個別指導を継続的に行っている。誤嚥性肺炎での入院も平成23年度が11名だったのに対し、平成24年度は5名、平成25年度は3名と確実に結果が出ている。

#### ●看取りケア

前年度より6名少ない2名であった。平成25年度は松江赤十字病院による“おしかけ勉強会”を開催、医療機関の今後の体制や看取りケアに対するニーズの高まり、お互いに抱える課題等を知ることから看取りケアに対する意識を高めることができた。今後も継続して看取りケアに関する知識と技術向上と体制強化を図っていく。

#### ●認知症ケア

予備群を含めて800万人以上いると推測されている認知症疾患に対するケアについては、多職種の職員が積極的に研修へ参加し、ケアの向上につなげている。平成26年度についても、施設内・外研修を企画し、スキルアップにつなげていきたい。

#### ●排泄ケア

定期的な勉強会を開催し、排泄ケア商品の熟知と意識の向上を推進し、個々の既往歴や生活の状態、生活のリズムや排泄パターン等に合わせ、個々に最適な排泄ケアの計画を策定し実施。適宜でモニタリングを行いながら改善を図った。

こうした取り組みについて事例をもとに、松江市内で2回、広島市で1回研究発表を行い、参加された関係者の方々へ行ったアンケート結果では、約7割の方々には今後の排泄ケアに“役に立つと思う”と回答をいただいた。

#### ④感染予防

手洗いや消毒の徹底・勉強会等を行ったことで、ノロウイルスやインフルエンザ等の発症・蔓延はなかった。

#### ④ 防災

前年度に引き続き、大地震による大規模災害への対応訓練を実施した。各自がマニュアルをもとに緊張感を持って取り組み、視察をいただいた松江消防署からも高い評価をいただいた。今後は、様々なケースを想定し、平成 26 年 6 月 18 日（水）には松江警察署との共同による屋外避難訓練を計画している。また寺津自治会との災害時相互援助協定の締結、地域の行事への参加や共同防災訓練を行い、地域と共に災害に備える。

#### ⑥ 苦情

特養：1 件、ショート 0 件、デイ 1 件、居宅 2 件

特養（施設）に対しては利用者へのケアについてであった。夜間体動の激しい利用者の内出血斑や皮膚剥離があり、このことに対してはご家族に対し丁寧に説明を行い、ベッド柵等の保護（環境整備）やレッグウォーマー等での身体保護と移乗等のケアの際に最新の注意をすることを徹底。以降は発生していない。

また、ショート利用に関する苦情は昨年度 0 件であった。

デイサービスでは、送迎車両に幅寄せをされたという内容であった。このことについては、車間距離を十分にとること等を徹底した。

居宅では利用者及び家族・関係機関とのコミュニケーションの欠如から発生したものであった。このことについては、丁寧かつ的確な説明を行うことにより、信頼関係を築いていくよう努めていく。

今後更に利用者や家族から気軽にご意見・ご要望がいただける環境を整備する。

（お褒めのお言葉も 1 件いただいた）

#### ⑦ 地域交流

本年度も公民館・社会福祉協議会・民生児童委員協議会・福祉推進委員・ボランティアの方々や授産センター・近隣の介護サービス事業所の方々をはじめ、地域住民の皆様に行事等を通じて様々に交流ができた。（平成 25 年度行事報告参照）

古江地区文化祭では、「私は私でありつづけたい」と題して、認知症になっても住みなれた地域で安心して生活ができるように、地域で支え合うことメッセージとして寸劇を披露し、好評を得た。

また、地域福祉の推進、生涯教育の一環として幼稚園・小中学校等の福祉体験学習の受入れも継続。古江小学校で高齢者への理解を深める講義も行った。地域の社会資源となるために始めた、清掃ボランティア活動も継続して毎回 3 名が参加。（3 月～11 月）その他、消防署・古江消防団の方々にも夜間想定火災訓練の視察や指導をいただき、総合的な地域とのつながりをさらに深めることのできた 1 年であった。

以上